

札幌市立常盤小学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

図書館を活用した授業を促進し、読書活動や調べ活動を積極的に行うことを通して、豊かな心の育成を図るとともに、本に親しみをもつ子どもを育てることが本校のテーマである。

日常的に本に触れ合う機会をもつことで、子どもが本に関心をもち、よりよい読書の習慣を身に付けるとともに、積極的に本を選び、自分の読みたい本の種類の幅を広げる。

また、図書館を、情報を得るための基地として教科学習や特別活動、行事等で積極的に活用できる子どもを育てる。

2 取組内容

(1) 教科学習に関わる取組

①国語の学習での取組

ア) 作品を読み深め、作品の価値を他に広める活動（ポップ作り）

5年生の「大造じいさんとがん」（椋鳩十）の単元では、図書館の椋氏の他の作品を選んで読んだ。椋氏の人間性を探り、考えを知ることにより作品に込められた思いを感じ、読み深める学習を行った。

推薦文を書く活動（本を読んでその本の推薦文を書く）では、図書館の貸し出し記録から椋鳩十作品があまり読まれていないという実態をとらえた。椋作品にスポットを当て、他の人に自分が選んだ椋氏の本を読んでもらうために推薦文やポップを作るなどの活動を行った。今回は最初に、「大造じいさんとがん」のポップづくりを進めた。その後、図書館にある椋作品を活用し同じく、ポップ作りの活動を行い、他者に椋作品の価値を広める取り組みを行った。

イ) 国語辞典の使い方の習得

3年生の国語辞典の使い方を学習する場面では、図書館にある国語辞典を一人一冊使い、言葉を調べる活動を行いながら学習を進めた。実際に国語辞典を使うことで使い方を身に付ける上で効果が高められると考えた。

ウ) 「おすすめの本」の取組

1年生の「本をえらんでよもう」の学習では、図書館で自分の読みたい本を選び、他の人に紹介するカードを作る活動を行った。



②総合的な学習の時間、社会科の学習での取組

ア) 自分の生き方を考える活動

6年生の総合の学習では、自分の生き方に関する学習で、職業を調べる活動を行った。職業や仕事に関する資料を図書館から選び、自分のやってみたい職業について深

く調べていった。お互いに発表する活動をしていく中で、それぞれの職業についてより理解を深め、自分の将来のことや生き方について考えることができた。

社会の学習では、歴史の勉強をするために、図書館の資料をもとに史実を調べるなどの取組を行った。授業ではパソコン室と並ぶ情報の発信源としての図書館の側面が発揮された。

イ) 調べ学習

3年生の総合的な学習の時間『ときわの森はかせになろう』では、芸術の森の樹木を観察し、発見したことを図鑑にまとめる活動を設定した。見学後、「自分のお気に入りの樹は、何という名前なのかな。」「樹齢は、いくつくらいなのだろう。」など、疑問やさらに知りたい事柄が生まれ、図書室で調べ学習を行った。植物図鑑や理科に関する本を探し、調べ学習を進めていく中で、一人一人が課題を解決することができた。調べ学習後は、「自分たちの発見を、全校児童や地域の方に広めたい。」という思いから、図鑑にまとめ、その図鑑を図書室に飾らせてもらった。多くの人に見てもらえるという事実を伝えることで、高い意欲で学習を進めることができた。



(2) これからの取組

児童委員会と連携し、図書館での読み聞かせ活動を企画し、イベントとして行っていきたい。多くの子が集まり、異学年交流も含め、子どもたち同士のコミュニケーション力をさらに高めていきたい。

3 成果と課題

(1) 成果

インターネットと比較したときに情報量が豊富なインターネットとある程度内容がまとまった書籍資料とのバランスが大切だと感じた。授業のねらいによって図書館の資料が有効である場合があり、

その活用方法の選択が大切であることを実感した。

これまでの取組から、自分が読みたい本、資料として必要な情報が含まれている本など、自分が今必要としている本を選ぶ力が身に付いてきた。また、図書館をより多く利用することで、本に親しむ心を育てることができた。また、読書や本の楽しさを子どもたちに実感させるとともに、豊かな情操を育てていくことができた。

(2) 課題

児童によっては選ぶ本に偏りがみられることがいつも課題となっている。そのためにも、読み聞かせ活動、子ども同士で本を紹介しあう学習をもっと充実させていきたいと考えている。